

新

昭和十八年二月廿五日

上 壽 慶 篤

内閣總理大臣 東條 英機 殿

人造石油事業ト上島式低温還元純鐵製造工場
トノ起業的關聯ニ關スル考察

首題ニ關シ政府ノ御考慮ヲ煩シ供參考度

一 石炭ヲ基トスル人造石油ノ大要

今日公表セラレツツアル石炭人造石油業ハ大別シ二ツノ方法アリ
即チ一 石炭ニ直接水素添加スルノ方法

二 石炭ヲ低温乾溜ニ附シ「タール」ヲ分離シ之レヲ蒸トシテ
加工スルノ方法

而シテ第一項ノ方法ハ世界的未完成ノモノニ屬シ今日完全ニ實施
シ得ラルモノハ第二方法ニヨルモノノ如シ從テ本文ハ第二法ヲ蒸

ハ其ノ工程上不可缺ニ出產セララル莫大ナル「コークライト」ノ有
効ナル處分方法ノ見込立タザルヲ主タル原因ト認メラル
今假リニ一屯ノ石炭ヲ低温乾溜ニ附ストスレバ約一〇%ノ「タ
ール」ト五〇〇と六〇〇「キロ」ノ「コークライト」及低温瓦斯ヲ
成ス、而シテ右「タール」ハ互ニ石油元料トシテ加工ノ基トナル
モ「コークライト」ハ更ニ困難ナル過程ヲ經ザレバ之ヲ石油化スル
事困難也

一 上島式純鐵製造ト「コークライト」トノ關係

上島式製鐵ニ於テハ其ノ炭素元料トシテ「コークライト」ヲ用ユル
極メテ有利ナリ即チ前記「コークライト」六〇〇キロニヨリ内三

〇キロヲ鐵還元用トシ「二六〇」キロヲ加熱用トシテ用ヒ純鐵
ヲ

〇〇〇キロヲ生産シ得可シ更ニ之レヲ表記スレバ
人造石油工場ニテ石炭一〇〇〇キロヲ用ヒ

發生瓦斯	乾溜用自消費
多一ル	一〇〇〇キロ
コークライト	石油元料
	六〇〇〇キロ
	純鐵製造用

即チ右工程表ニ見ル如ク石油工場ト製鐵工場トハ不可分關係ニ存
在シ得ルモノナリ

四 上島式工場建設ノ場合一應ノ考慮ヲナス點

政府ニ於テ實施乃至計畫中ノ石油事業計畫ニ於テ假リニ「ヨロイ
イト」ガ問題トナル如キ場合ハ上記ノ工程ヲ考慮ニ入レラレ度又
上島式鐵工場計畫ニ當リテハ左記ヲ承知シ其ノ立地及實施對策ヲ
立テントスルモノ也即チ左記ヲ豫定シ計畫ノ實施ニ當ラントス

一 從來日本全石油工場ヨリ産出スル「ヨロイイト」ノ量及其
ノ對外工場へ供給可能量

而シテ「ヨロイイト」供給ナキ場合ハ上島式ハ直接元石炭ヨリ製鐵
ヲ進行スル事ハ發明ノ根本ニ於テ當然ナレドモ一應立地並ニ設計
樹立ニ當リ火急右事實ヲ再檢討シ國家資材勞力ノ最高効率化ヲ計
ラントスルモノ也

四 參 考

一 今假リニ一〇〇〇万屯ノ石炭乾溜工場ヲ建設スル場合六〇〇万
屯ノ副産「ヨロイイト」ヲ生成シ之レニヨリ純鐵 $\times 6000$ 万屯ヲ
得ラル可シ 一島二石也

一 本件ニ關シテハ昭和十年陸軍大臣外政府當局へ報告圖示タルモ
此度上島純鐵法正式ニ議會ニ於テ確立セラレタルヲ以テ改メテ
茲ニ再提議ス